



Toward a more livable earth



目次

● ICETTを支える企業戦士たち(2).....	2	● バーベキューで日本での休日を満喫	12
● CTIサイドイベントを開催	4	● グローバルフェスタJAPAN2009に出展	13
● 三重県委託アジア自治体環境支援プログラム (ECPA) 事業	5	● 四日市市環境フォーラム初参加	13
● 四日市市委託事業 2009 中学生地球環境塾	6	● Mie子どもエコフェア参加	14
● JICA集団研修 公害防止と地域環境管理	8	● 財団理事・評議員及び職員の異動	15
● 愛・地球博基本理念継承発展事業 (環境関連技術に関する研究者招聘事業)	10	● 環境大臣表彰	16
		● ICETTニュース	16

ICETTを支える企業戦士たち (2)

(中部電力) 塩谷 謙一さん



シリーズ2番手は中部電力の塩谷さんです。2007年7月にICETTに着任され、途上国における温暖化防止支援事業、日本国内での研修対応、海外セミナー講師として幅広く活躍されています。

■ ICETTは鈴鹿山麓に位置しており、緑に囲まれた新鮮な環境の中で仕事をしています。ICETTの職員は財団雇用職員、行政および四日市コンビナート企業からの出向者等で構成されており、個人の職歴も様々です。そのため、行政関係の話、他企業での経験談等を聞く機会も多く、いろいろな意味で視野が広がっています。

■ ICETTに来て2年5ヶ月が経過しました。私の業務は途上国向けの温室効果ガス排出削減支援事業、JICA委託の国内招聘研修を担当しています。また、中国で開催されるセミナーで火力発電所における環境対策について紹介する機会もあります。このような業務を進めていく中で、出向元の中電で学んだ技術が役立っていると感じています。中電に勤務していた当時は主に火力発電所の運転業務に従事していましたが、その当時学んだ環境対策技術や省エネルギー対策技術の経験を活用することができ、仕事にもやりがいを感じています。



天津のセミナーでNOx削減技術を紹介

特にアジアの途上国では石炭が主燃料であり、環境対策もままならない状況であり、大気汚染が深刻な問題となっています。途上国を訪問するたびに日本の大気汚染防止技術、省エネルギー技術は本当に世界に誇れるものであることを改めて強く認識することとなりました。私も微力ながらこれまでの経験を紹介できればと思っています。

■ ICETTに来て初めて途上国と呼ばれる国を訪問することとなり、私にとっては貴重な経験となっています。温室効果ガスの排出削減を目的として、中国は雲南省

の化学肥料工場、インドではグジャラート州の圧延工場を対象とした省エネルギー支援事業に携わっています。いずれの国においても日本との文化、思想の違いにより戸惑うことも多いのですが、現地では議論を重ね、お互いの考え方を認識、尊重しながら共通の目標に向かって進んでいます。数多くの課題を克服していく過程では苦労もありますが、その分成果を得た喜びは国境を越え、何にも変えがたいものがあります。



中国肥料工場で省エネ改善について打合せ

途上国では予期せぬトラブルにも幾度か遭遇しました。インドでは圧延工場における省エネルギー診断を終え、工場から空港に向かっていたところ、突然大群衆が行進しているデモ隊と遭遇してしまい、車をインド人に囲まれてしまいました。身の危険に恐怖を感じるとともに、車が大きく揺さられる度に、「インドで私の人生も終わりがかな…」と観念したこともありました。(幸い危害は加えられることなく、タイヤをパンクさせられた程度で済みました。)日本ではこのような状況に遭遇することはまずないと思います。今だから言えますが、貴重な経験になりました。



インドにてデモ隊遭遇後 CNN インタビューを受ける専門家

CTI サイドイベントを開催

国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) の 第30回補助機関会合

概要

国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) の補助機関会合第30回会合が、2009年6月1日 (月) ~12日 (金) の日程で、ボン・ドイツにて開催されました。これに併せてCTI (気候変動防止技術イニシアティブ) はサイドイベントを開催しました。

CTI サイドイベントは6月5日 (金) に開催され、CTI 活動の進捗状況報告、国連開発計画 (UNDP) による技術ニーズ評価実施ハンドブック改訂版の紹介、ならびに低炭素経済へ移行するための技術移転促進を加速させるにあたり、低炭素技術の普及展開において得られた教訓の共有を行いました。同サイドイベントには、気候変動問題における技術移転課題に取り組む担当行政官、民間セクター、国際機関、NGO など約40名が参加しました。

CTI 議長の Elmer Holt 氏はサイドイベントを開会し、CTI が国際エネルギー機関 (IEA) の実施協定として、気候変動対策技術の開発・移転に寄与すべく国際連携協力を促進しており、とりわけ国際技術移転活動の推進において民間セクターが重要な役割を担うことから、連携強化を重視していると述べました。技術移転に関する議論においては、これまで国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) のもとでの活動に対象が限られていましたが、近年では大多数の技術移転が実際に行われる UNFCCC 以外における活動も包含する傾向にあり、これは現実的かつ実効性のある取り組みにとって喜ぶべき方向性であるとしています。

同サイドイベントのサマリーおよび発表資料は下記 CTI ウェブサイトに掲載されています。

(黒田)

<http://www.climatetech.net/news/WhatsNew.cfm?Page=1&NewsID=56285>



CTI サイドイベント参加者



CTI サイドイベントパネリスト



ドイツ ボンの位置

三重県委託アジア自治体環境支援プログラム(ECPA)事業

カンボジア王国シアヌークビル州を 対象とした環境管理研修

概要

ICETTでは、三重県の委託を受け、昨年度よりカンボジア王国シアヌークビル州を対象としたECPA事業を実施しています。今年度の研修では、州行政官の計画立案・実施や具体的取組の実行など環境管理能力向上を目的に、州の実情にあわせたテーマを取り上げました。8月30日から9月18日までの20日間にわたって国内研修を行い、同州から10名が参加しました。

■背景

カンボジア王国シアヌークビル州は、2000年初めより観光産業、貿易、港湾業などを中心に着実に経済成長を遂げています。しかし、それに伴い人口増加やインフラの開発による様々な環境問題が顕在化しつつあり、対策が迫られています。

このような状況の解決に向けて、昨年度は、州環境問題を再認識するとともに、目指すべき環境将来像を明確にした州の環境基本計画を作成しました。

2年目である今年度は昨年度の研修成果を元に、具体的な取組の実行に向けて、州行政官である研修員が帰国後に継続的・自発的な環境管理を行っていけるような研修を目指しました。

■研修の成果

研修成果として作成された実行計画では、天然資源の保護・管理を目的に、廃棄物・排水分野、自然環境分野など分野別に環境啓発、環境教育に焦点を当てた案が作成されました。この案は、帰国後の関係者間の話し合いによって、より実現可能な計画へと修正され、さらには実行へ移されていく予定です。

■おわりに

見学先では子どもたちと触れ合う機会もあり、研修員はとても喜んでいる様子でした。それと同時に改めて日本の環境教育が浸透している様子に感心もしていました。
(上田)



シアヌークビルの位置

■研修の内容

研修では、「廃棄物／排水対策」、「環境保全活動の取組」を中心に取り上げました。これらは州の課題となっているテーマでもあります。生活系の廃棄物と排水対策に関連する施策や行政の取組、実際の処理の様子、さらに住民、企業などの環境保全活動の取組事例や観光地における保全活動に焦点を当てた事例、環境教育・意識啓発の事例も紹介しました。



三重県知事表敬訪問



埋立処分場の見学

平成21年度 四日市市委託事業

2009 中学生地球環境塾

概要

ICETTでは、次世代を担う子どもたちに地球環境問題について関心を持ってもらおうと、2002年から四日市市の委託を受け「子ども地球環境塾」を開催しています。昨年度は、四日市市制111周年の記念事業として、当市と友好都市である中国天津市と姉妹都市であるアメリカロングビーチ市から中高生を迎え開催されました。

今年も、両都市からの強い要望で開催することになりましたが、新型インフルエンザの影響で来日できたのがロングビーチ市のみとなってしまいました。期間中、四日市市の中学生と共に、環境問題に対する国際協力の必要性を理解してもらい、国際交流を深めるという目的で、ICETTで研修を行いました。

環境についての勉強も、日本の文化体験もおもしろかった

8月3日午後9時、一足早くICETTに入館していた四日市市の中学生4名の出迎えを受けて、ロングビーチ市のメンバー4名と引率の先生1名が到着しました。その時既に、以前からの友達のように挨拶を交わすみんなを見て、今回の学生たちなら、この地球環境塾を楽しく進めていけそうだなと、直感しました。

2日目からいよいよ「中学生地球環境塾」の始まりです。開講式で、みんなの決意を聞き、ますます期待が膨らみました。まずは、四日市公害のことやICETTのことを知ってもらおうと、ビデオを視聴しましたが、彼らにとって、とてもインパクトがあったようです。

四日市港にあるポートビルうみてらす14から見た四日市市の景色は、海も山も見え望遠鏡を使えば、ICETTも見ることができました。霞地区のコンビナートを見て、整備された壮大な製造プラントを真下に、その迫力にびっくりしたり、巡視艇「かもめ」に乗船して行った水質パックテストでは、いい結果が出たことに驚いたりしていました。四日市市の環境の改善を実感してもらえたことでしょう。



四日市市長と市議会議長を表敬訪問しましたが、ロングビーチの学生も四日市市の学生も市長と議長に会えることにびっくりしていました。そのせいか、少し緊張している様子でしたが、市長がみんなからの質問に気さくに答えてくださり、緊張の糸もほぐれていきました。

学生からの「どんなまちづくりをされたいのですか？」という質問に、市長は「四日市を環境先進都市にしたい。」と熱く語り、学生たちはみんな、うなずいていましたが、特に四日市市の学生はその言葉に、目を輝かせて聞いていました。彼らが将来きっとその一翼を担ってくれることでしょう。



3日目は、(株)東芝セミコンダクター社四日市工場、味の素(株)東海事業所、中部電力川越火力発電所を見学しました。

東芝四日市工場では、みんなが使っている携帯機器などに使われている半導体メモリを作っているという説明を聞いて、驚いていました。また身近に感じられたのか、担当者の方にたくさんの質問をしていました。学生たちにとっては、東芝の最先端技術や環境保全体制は非常に

興味深かったようです。普段は見るできない工場内を見学することができて、有意義な時間を過ごせました。味の素東海事業所では、工場内の環境保全装置を見学し、バードサンクチュアリで野鳥の観察をしました。

コンビナート群の中で、このような自然が保たれていることに感心していました。中部電力川越火力発電所では、テラ46も見学させていただき、学生同士、英語や日本語を駆使しながらクイズやゲームに熱中していました。

今回の環境塾では日本文化を体験してもらおうと、地域の皆さんに協力していただき、流しそうめんや日本茶教室などを企画しました。箸の使い方もうまくなり、流れるそうめんに大満足の様子でした。たくさん用意した

そうめんも見る見るなくなっていました。用意していただいた、きゅうりやミニトマトも大人気でした。

また、ロングビーチ市の学生たちは、ホームステイも体験しました。ホストファミリーに大歓迎され、名古屋城へ行ったり、ショッピングを楽しんだり、日本の家族の一員になって休日を過ごしました。



中学生環境サミットで、自分たちにできることを発表しました

今回の「中学生環境サミット」では、「わたしたちがいまできること」をテーマに、この中学生地球環境塾に参加して感じたことや考えたこと、そして今までの経験を生かして、議論を深めました。両都市混合の2グループに分かれ、お互いの国の状況を比べながら、地球環境を守るために自分たちに何ができるのか、何をしなければいけないのかについてプレゼンテーションを行いました。

両グループとも、しっかり事前の準備ができていて、わかりやすく楽しい発表となりました。講師の方からも褒められ、きっとこれからも環境について関心を持ち続けてくれると思います。

サミットの最後には、「緑あふれる美しい地球を守るため、わたしたちが手をつなぎ、輪となって行動していきます。」という決意表明を全員で読み上げ、サインをし、終了しました。



「ほかの国の環境に関する取り組みがわかって、貴重な体験ができました」

学生たちからは、「とてもすばらしく、楽しい体験ができた。もっと、四日市に滞在したかった」「言葉の壁はあったけれど、みんなと仲良くできた」「四日市市の変化が見られて、ロングビーチ市も変われると思った」「世界中が協力することが大切だと思った。まずは、自分の身の回りから気を付けていくべきだと思う」などの感想が聞かれました。それぞれが自分なりに何かを感じてくれたようです。

はじめから、一人一人が友達になろうと積極的に話しかけ、とても楽しい9日間でした。みんなの熱心なディスカッションから環境に対する意識の高さを見ることが

できました。サミットでは、たくさんの方にお越しいただき、中学生らしい発表に会場からも笑いと大きな拍手をいただきました。彼らのとても満足そうな表情が印象的でした。最終日には、みんなの目に浮かぶ涙を見て、担当者としても胸が熱くなりました。この繋がりをこれからもずっと大切にしたいと願います。

最後に、この環境塾に協力を頂いた各企業や団体、地域の皆様にお礼を申し上げます。皆様のおかげで、いい思い出を作ることができました。ありがとうございました。来年は、天津市とロングビーチ市と揃って開催できることを願います。
(矢田)

平成21年度JICA集団研修

公害防止と地域環境管理

POLLUTION CONTROL AND LOCAL ENVIRONMENT MANAGEMENT

概要

ICETTでは、JICAの委託を受け、今年度からICETTの設立背景でもある公害防止をテーマとした研修を実施します。第一回の今年度は、中国、ガーナ、タジキスタンの3カ国5名の行政官を対象に約40日間、各国の地域で発生している公害問題の改善に向けた計画案を策定することを目的として本研修を実施しました。

背景と目的

開発途上国では、環境マネジメントシステムにのっていない中小規模の企業・工場が産業公害の真の汚染源となっています。これらに加えて、生活系の未処理の排水・廃棄物などが複合し、環境汚染は“点”的なものから、“面”的なものへ深刻化していると言えます。このような状況にふれて、本コースでは、研修参加国の当該地域で問題となっている排出源を特定し、それを管理する行政を対象とした、公害防止のための改善策を研修員参加型の研修を通して計画しました。

研修では、特定の地域で現実に発生している、中小規模ながら無視できない公害の影響を直視し、具体的な改善策の計画・実施にまで至らせる行政的手法を日本の事例をもとに知識を深め、研修員参加型により体得することを目的としました。

研修の内容

研修期間は8月13日～9月18日の約40日間で、研修員は中国（2名）、ガーナ（2名）、タジキスタン（1名）の3カ国から5名の行政官を迎え実施しました。本研修では、公害防止（大気・水質関係）に焦点をあて、さらに生活系の排水・廃棄物も包括したカリキュラムを組みました。

研修内容は、講義、演習、現場見学に加え、各研修員が自国状況と比較しながら、研修で得た情報を理解し、その活用を考えることが出来るように討議や意見交換の場も設定しました。

研修の実施

本研修は、1) 公害問題の現状把握、2) 環境改善とマネジメント、3) 地域の環境管理能力向上、4) 総括（アクションプラン発表）の4つのモジュールから構成しました。

1) 公害問題の現状把握

日本のかつての公害の経験を学び、研修員の全国各地域の現状についての問題意識を確立することを目指しました。

講義では、日本の公害の歴史と克服について理解を深めました。公害関係法令などについて学び、四日市公害の地理的要因を知るため、原点である磯津地区へも訪れました。

また、各研修員の地域における公害問題、優先的改善分野などについて発表し、各自が抱えている課題と習得すべき内容について再確認しました。



磯津地区にて説明を受ける研修員



課題について発表する中国のタンさん

2) 環境改善とマネジメント

企業の「自主的な環境管理体制」の概念を再確認し、同概念を各国の公害の問題となっている工場に照らし合わせ、なぜ導入されていないのか、また定着していないのかなど阻害要因を分析することを目的としました。

講義では、公害対策技術として、大気・水質汚染防止技術やクリーナープロダクション（CP）技術を紹介しました。また、企業における排水処理技術などの見学を行いました。

そのほか、四日市地域環境対策協議会加盟会社の環境担当者の方々と討議を行いました。ここでは、企業の公害防止対策や地域とのコミュニケーションの大切さについて話を聞かせていただきました。また、研修員の抱えている課題について意見交換することが出来て、研修員にとって貴重な場となりました。



四日市地域環境対策協議会の方々と

3) 地域の環境管理能力向上

地域の環境改善に向けては、問題となっている工場はもちろん、地域の各主体がそれぞれの役割や特徴を活かした形で活動へ参加することが必要となります。

本モジュールでは、企業のISO14001取得や社会的責任（CSR）など自主的な環境への取り組みについて理解を深めたほか、地域ぐるみで協働に取り組んでいる県内の河川流域へ訪問して、地域の活性化事業などについても知識を広げました。



河川流域で水質チェック実習をするガーナのティティさん

4) 総括（アクションプラン発表）

研修のまとめとして、本研修から得た知識、情報をもとに、研修員が作成した自国で整備すべき課題を洗い直し、具体的な実現方策を提案したアクションプランを発表しました。

このアクションプランはドラフトであり、帰国後さらに見直し、関係者と再調整しながら精度を向上させることを胸に研修員は帰国しました。

課外活動

研修期間中の週末に四日市市の茶室、泗翠庵にて立礼席でお菓子和抹茶をいただき、日本文化を体験しました。その後、研修員は、茶室と庭を見学しました。皆、日本の伝統文化に触れて、楽しい休日をととても喜んでいました。



泗翠庵にて

■ 研修の成果

研修に参加した5名の国の環境状況は、かなり異なる部分もありましたが、研修員は、自国と違う状況について他の研修員の発表を熱心に聞いたり、情報共有をしたりして意欲的に研修に取り組みました。

講義で視聴した四日市公害の被害と克服のDVDの内容には、その現実にショックを受け、自国での今後の公害防止対策への取り組みの重要性を再認識していました。

また、研修で日本の工場の環境活動を実際に目で見られたこと、また河川の水質チェックを実践出来たことは研修員にとって興味深く、日本の公害防止への意識の高さを改めて実感したと話していました。



閉講式終了後の記念撮影

■ おわりに

多くの開発途上国では、経済発展や工業化にともない、大気、水質、また生活系の廃棄物問題が深刻化しています。このような公害問題は、人の健康被害や生態系へも影響を与え、被害が広範囲にわたるため、早急の対策が必要と考えます。

日本の四大公害の一つである四日市公害の教訓を生かし、公害の未然防止の重要性について研修員の理解と知識を深める機会となるよう今後の研修でも努めます。末筆ながら、ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

（遠山）

愛・地球博基本理念継承発展事業

環境関連技術に関する研究者招聘事業

The Project on Invitation to Japan for Environmental Research (PIER)

概要

平成17年9月、成功裏に閉幕した愛・地球博の基本理念“地球的課題に対する世界の叡智の結集とその国際交流”。この基本理念を継承発展させるため、ICETTは途上国・地域における環境分野の優れた研究者を日本へ招聘し、研究活動で得た知識や技術を自国へ移転することを目的とした事業を実施しています。本事業は平成19年度に始まり、3年目を迎えました。今年度は、4名の研究者（ウズベキスタン、タイ、コートジボワール2名）が各指導機関の協力のもと、順調に活動を進めています。本号では、各研究者の活動の様子（10月上旬現在）を本人のメッセージ（原文英語）によりお知らせします。（内田）

研究者と指導機関のご紹介

水質分野 平成21年7月～平成22年3月

- 研究者 : Ms. Elena N. GINATULLINA(エレナさん) ・
ウズベキスタン共和国 国立水問題研究所 水力生態学試験室 主任研究員
- 指導機関 : 工学院大学工学部環境エネルギー化学科
環境分析化学研究室 准教授 釜谷美則先生
- 研究テーマ : オオミジンコを生物指標とする河川水質
モニタリングとそのモデル化
- 日本での生活
毎朝、「おはようございます！」と挨拶をして研究室に入り、一日が始まります。その後は、オオミジンコへ

の給餌と飼育管理をして、成長段階に応じてバイオアッセイを行ったりしています。釜谷研究室での活動はとても有意義です。特に、オオミジンコの食物摂取について蛍光マイクロビーズを使って行う実験がとても興味深いです。さらに、蛍光顕微鏡等を使うことで、オオミジンコの消化器官や、体内に入った蛍光マイクロビーズを観察できることに喜びを感じています。それが、消化のメカニズムの研究につながるからです。*

休日には、研究室の仲間とバーベキューパーティーをしたりして、親睦を深めています。自国では経験したことのないことも多く、とても楽しいです。



大気分野 平成21年8月～平成22年4月

- 研究者 : Mr. Ittipol PAW-ARMART(ポンさん) ・
タイ王国 天然資源環境省 公害防止局
大気質・騒音管理局 環境担当職員
- 指導機関 : 共立女子大学大学院 家政学研究科 人間生活学専攻 被服環境研究室 教授
芳住邦雄先生
- 研究テーマ : 都市環境における大気汚染物質の排出特性および動態評価に関わる研究
- 日本での生活
朝9時から、夕方5時まで研究活動に励んでいます。*
週の3日間は、共立女子大学大学院の芳住研究室にて、都市環境におけるガソリン中の揮発性有機化合物（いわ

ゆるBTEX）に焦点をあてた研究をしています。*

後の2日間は、東京都環境科学研究所にて、石井先生のご指導のもと、有機性炭素や元素状炭素（Elemental Carbon）などの粒子状物質の分析を米国労働安全衛生研究所NIOSH 5040法で行っています。（注：11月は埼玉県環境科学国際センターにも粒子状物質の粒径分布に関する研究指導をいただく予定です。）*

この事業を通して、これまでの研究を深めるだけでなく、日本の人々と交流したり、美しい文化に触れたりできることに感謝しています。また、この事業はアジアだけでなく、世界の技術者、科学者との協力関係も構築できるものと思っています。



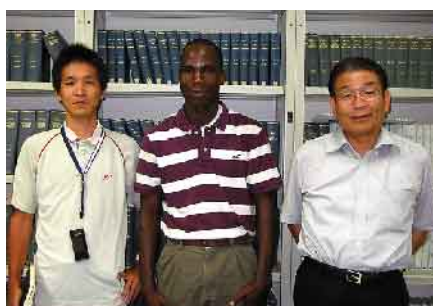
水質分野 平成21年8月～平成22年4月

- 研究者 : Mr. Kouassi K. LAZARE(ラザーさん)・コートジボワール共和国 アボボ・アジャメ大学 生態学研究センター 教員/ 研究員
- 指導機関 : 九州大学工学研究院 環境都市部門 沿岸域環境学 沿岸海洋工学講座 環境流体力学研究室 教授 小松利光先生
- 研究テーマ : 水質管理を目的とした湖沼の沈殿現象のシミュレーション
- 日本での生活

毎朝自転車で26分ほどかけて大学へ通っています。8時半頃に到着して、研究のほとんどを九州大学大学院で行っています。夕方6時半頃には研究室を出て、家に帰ります。

千里松原海岸で沿岸侵食現象を調査した際には、チームが非常に精巧な装置を使って精度の高い計測を行うことに感銘を受けました。

もう一つ印象に残っているのは大学院生の論文が完成した時の祝賀会です。夜遅くまで、みんなでボウリングをしたり、お酒を飲んだりしました。とても楽しい時を過ごすことが出来ました。



廃棄物分野 平成21年8月～平成22年4月

- 研究者 : Mr. Ahou F. BOTTO(ボットさん)・コートジボワール共和国 環境水森林省 環境品質部 廃棄物事業 廃棄物事業担当チーフ
- 指導機関 : 九州大学工学研究院 環境都市部門 循環型社会システム工学研究センター 東アジア環境研究機構 教授 島岡隆行先生
- 研究テーマ : 有害廃棄物管理計画の策定に向けたインフォーマルセクターによる汚染行動の調査と目録作成

■ 日本での生活

平日は8時40分から6時20分まで研究室に居ます。研究室では、インターネット等を使った文献調査をしたり、それをもとに調査計画や質問案を練ったりして他の研究員と討議を行っています。北九州のPCB廃棄物処理施設へ訪問したときには、その規模の大きさに驚きました。

週末はラザーさんと出かけ買い物や町並みを見たりしています。自国にいたときは、日本人はパーティーなどをすることなく、ひたすら働いているというイメージをもっていたため、研究室の方々が開いてくださった歓迎会がとても心に残っています。日本人も、みんなでワイワイ楽しく過ごしたりすることがわかりました。



バーベキューで日本での休日を満喫

ICETTで研修中のJICA3コース23カ国24名の研修員が、四日市スポーツランドでバーベキューを楽しみました。地域の子もたちとサッカーを通じて、国際交流を深めました。

6月28日、今にも雨が降り出しそうな空模様でしたが、「固形廃棄物総合管理」、「化学産業における環境管理技術」、「京都メカニズム担当者養成」の3コースをそれぞれ受講している研修員24人（23カ国）と一緒に四日市スポーツランドへ出発しました。

朝にも関わらず、研修員のテンションは既に最高頂に達していました。デイキャンプ場に到着すると、早速バーベキューの準備が始まりました。さすがにみなさん、普段からバーベキューには慣れているようで、手際よく野菜を切ったり、火を起こしたり、またアボガドやトマト、たまねぎなどで、それぞれの国や地域オリジナルのバーベキューソース（ディップ）を作ったりと、あっという間に準備も終わり、お待ちかねのバーベキュー大会が始まりました。歌を歌い、ダンスを踊りながら、肉や野菜を焼いて特製ディップをたっぷりのけて頬ばっていました。特製ディップは、私もはじめていただきましたが、とてもおいしく肉の進み具合も早かったような気がします。研修員たちにとっては、焼きそばやおにぎりは初めての体験のようでしたが、評判は上々でした。



BBQ 準備はお手の物

また、この日は日曜日ということもあり、他のグループや家族連れもバーベキューを楽しんでいました。いつの間にか、まわりのグループからも、「どんな集まりですか？」と関心を持っていただき、テーブルの垣根を越え、コミュニケーションをとることができました。特製ディップを勧めたり、おしゃべりしたり、赤ちゃんを抱っこさせてもらったりと東の間の地域交流も楽しむことができました。

お腹も一杯になると、サッカーが始まりました。キャンプ場に来ていた子どもたちと交じって、ひととき研修を忘れ、みんなが子どもの頃に帰ったように必死でボールを追いかけていました。



サッカーを終え、子どもたちと一緒に

今にも雨が降り出しそうだった空も、サッカーをする頃には太陽の光が差し、真っ黒に日焼けするほどでした。最後の片付けも荷物の運搬もみんなで手分けし、終始にぎやかに交流会は終わりました。

今回の研修では、ホームステイを予定していましたが、残念ながら体験していただくことが出来ませんでした。がっかりしていた研修員たちに何か楽しい催しをと思い付いたバーベキューでしたが、彼らにとっては、楽しい思い出がひとつ増えたことと思います。これからも、地域のみなさんと研修員との国際交流ができるような催しを研修期間中に取り入れたいと改めて感じました。

(矢田)



3コース23カ国24名の記念写真

グローバルフェスタ JAPAN2009に出展

10月3日（土）、4日（日）の両日、東京の日比谷公園において、グローバルフェスタ JAPAN2009が開催されました。土曜日は雨模様でしたが、日曜日は天気恵まれ、大勢の方が訪れました。

今年のテーマは「環境と気候変動」で、「届け地球の声。広がれ、仲間の輪」を合言葉に、地球と世界の今を、楽しみながら知る2日間でした。

ICETTブースはメインゲートすぐそばで、途上国に向けた環境技術移転活動を紹介すると共に、環境クイズなどを通じ、環境及び国際協力についての啓発活動を行いました。熱心に展示を見たり、質問するスリランカ留学生（行政官）や学生たち、環境クイズを楽しむ子どもやカップルなど大勢の来訪者に楽しみながらICETT活動を知っていただきました。（園部）



四日市市環境フォーラム初参加

10月12日（祝）四日市市文化会館において、四日市市主催の「四日市市環境フォーラム シンポジウムと展示 & 交流会」が開催されました。今回が2回目で、規模を拡大し、ICETTは初めて参加しました。

シンポジウムでは四日市市環境フォーラム会長の国保元愷先生が「環境保全型産業への転換による持続的経済成長」と題する基調講演を行い、事例発表やエコトーク

も行われました。

展示では40の環境団体が展示を行い、約400名の参加者がありました。ICETTではパネル展示やパンフレットを通じて環境技術移転活動の啓発活動を行いました。来場者の他に、展示会および交流会を通じ多くの環境団体と交流することが出来ました。（園部）



展示会風景



FM よっかいちからインタビューを受ける

Mieこどもエコフェア参加

1000名がICETT訪問

概要

子どもたちが楽しみながら環境についての理解を深める「Mieこどもエコフェア」が7月18日、19日の両日、鈴鹿山麓リサーチパークで開催されました。ICETTには1000人近くの来訪者があり、パネルを見て環境の知識を深めたり、パソコンクイズや様々なクイズを楽しみました。ここでは、その時行ったアンケート結果も紹介します。

ICETTがある鈴鹿山麓リサーチパークにおいて、三重県環境学習情報センター主催による、「Mieこどもエコフェア」が開催され、リサーチパークは2日間エコパークになりました。本年度は10周年であり、たくさんのブースが設けられ、参加者は4000名と昨年の2600名に比べ大幅に増えました。

ICETTではおもしろ環境クイズ、国旗クイズ、世界各国の民芸品展示、ICETT活動の紹介、ICETT館内見学などを行い、子どもを中心に1000人近くの方が訪問し、1日中にぎわいました。

おもしろ環境クイズでは、クイズを通して環境問題を知り、展示パネル、ビデオ、パンフレットなどを見て環境の大切さについて理解を深め、ICETTの活動を知ってもらいました。

ICETTには世界から85カ国（2009年11月現在）から研修員が来ており、研修員の滞在中国旗を掲揚しています。おもしろ国旗クイズでは世界の珍しい国旗に関するクイズを出題し、実物の国旗も展示しました。



親子でパソコンクイズに挑戦

ICETTでは研修員から各国の民芸品や美術品をいただくことが多く、ロビーや廊下に展示しています。おみやげ品クイズでは、ICETTに展示してあるおみやげを見つけ、国名を当ててもらいました。初級編と世界遺産編を用意し、子どもから大人まで楽しみました。

おもしろ国旗クイズにチャレンジ!!

- Q1：三角形の国旗の国は？
Q2：模様なく一色だけの国旗の国は？



- Q1. ネパール（写真後方）
Q2. リビア（緑一色です）

おみやげ品クイズにチャレンジ!!

【初級編】

きゅうけつき
ドラキュラの国は？



答え：ルーマニア

【世界遺産編】

タージ・マハルは
どこの国？



答え：インド

また（1時間に1回）ICETT館内ツアーを行い、屋上の太陽光発電設備や、珍しいインドネシアの楽器アングロン、皇太子ご夫妻来訪時の記念写真、宿泊棟、研修棟、食堂などICETT施設を多くの方に見学していただきました。

館内見学ではガーナの研修員と握手して、国際交流を深めるちびっこ親善大使もいました。

ICETTではシャープさんの「環境を守る取組み」として太陽電池の展示もあり、玄関先では四日市中央工業高校のソーラーカーが子どもたちの人気を集めていました。

来年も、皆様のお越しをお待ちします。 (園部)



ソーラーカー

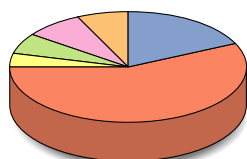


ガーナのレティシャさんと挨拶

Mie子どもエコフェアのアンケート結果

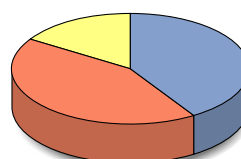
(有効回答数79)

Q1：このイベントを何で知りましたか？



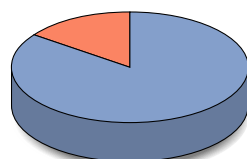
■主催者広報 18%
■学校から 57%
(チラシ7万枚配布)
■新聞で 4%
■友人から 6%
■ネットで 8%
■その他 7%

Q4：ICETT展示の感想は？ → 好評でした。



■良かった 41%
■環境の重要性を感じた 43%
■普通 16%
■つまらなかった 0%

Q2：イベントの感想



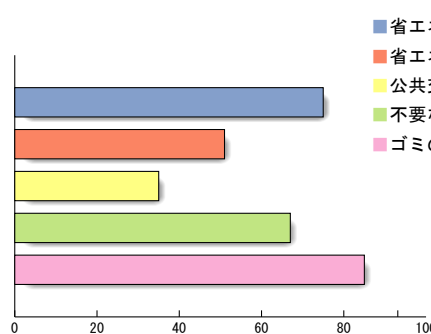
■良かった 85%
■普通 15%
■つまらなかった 0%

多くの方が満足したようです。

Q3：国際協力の重要性

重要である 99%
考えていない 1%
必要がない 0%

Q5：環境のため日常していること (複数回答)



■省エネ実行・電気 75%
■省エネ実行・水道 51%
■公共交通機関利用 35%
■不要な包装しない 67%
■ゴミの分別をする 85%

財団理事・評議員及び職員の異動

理事

7.1 ■ 倉 剛進 ■財団法人ファインセックスセンター専務理事

評議員

10.19 ■[新任] 岡部道生 ■大同特殊鋼株式会社常務取締役
■ 越 智洋 ■株式会社トーエネック取締役社長
■ [退任] 倉橋基文 ■大同特殊鋼株式会社常務取締役
■ 野田泰弘 ■株式会社トーエネック取締役社長

職員

2009.4.1 ■[新任] 三浦麻里 ■事務管理員
■ 河俣泰三 ■業務補助員
6.3 ■[新任] 内田直子 ■業務補助員
6.30 ■[退任] 倉 剛進 ■専務理事
7.29 ■[新任] 萩原陽子 ■事業管理員
7.31 ■[退任] 林 香里 ■CTI事務局補助員(人材派遣)
8.3 ■[新任] 川口 翼 ■人材派遣
9.30 ■[退任] 山脇里美 ■事務管理員
10.1 ■[新任] 小沼容子 ■事業管理員
■ 宇佐美香平 ■参事 東ソー出向
11.30 ■[退任] 土村和男 ■研究開発部長 東ソー退職

備考：理事、評議員の役職名は原則就任時のものです。

4月度職員異動に一部記載もれがありました。お詫びして訂正します。



大臣賞を受ける川口会長

環境大臣表彰

ICETTの事業活動が評価され、環境省の「平成21年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞いたしました。

同賞は毎年、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、その功績をたたえるため環境大臣表彰を平成10年度から行っているものであり、本年度は全国163件の中から5部門30件が選定されました。12月2日の表彰式には川口文夫ICETT会長(中部経済連合会会長)が出席し、竹本地球環境審議官から



「発展途上国等における温室効果ガス排出削減支援活動」により、国際貢献部門で表彰を受けました。

(伊藤)

ICETT ニュース

平成21年 (前号と一部重複)

- 4月26日 地球環境国際研究推進事業「温室効果ガス排出削減支援事業(比国) (諸地域の食品産業中小企業)
- 5月21日 地球環境国際研究推進事業「温室効果ガス排出削減支援事業(インド) (グジャラート州圧延産業)
- 24日 JICA中南米「循環型社会形成促進のための廃棄物総合管理」研修(～7/3)
- 31日 UNFCCC関係、ボンにてサイドイベント開催(～6/8)
- 6月3日 JICA集団「化学産業における環境管理技術」研修(～7/17)
- 10日 JICA集団「京都メカニズム担当者養成」研修(～7/24)
- 20日 地球環境国際研究推進事業「温室効果ガス排出削減支援事業(中国) (雲南省化学肥料企業)
- 23日 第1回理事会
- 24日 第1回評議員会
- 30日 倉剛進専務理事退任
- 7月18日 Mieこどもエコフェア参加(～7/19)
- 7月 機関紙53号発行
- 8月2日 JICA国別「ペルー廃棄物総合管理」研修 現地調査(～8/15)
- 3日 四日市市「中学生地球環境塾」(～8/11)
- 13日 JICA集団「公害防止と地域環境管理」研修(～9/18)
- 13日 四日市大学環境情報学部インターン生受入(～8/26)
- 17日 鈴木経済産業省産業技術環境局長ICETT視察
- 17日 JICA「中国CDM案件形成促進」研修(～8/30)
- 27日 江畑三重県副知事ICETT視察
- 30日 三重県「カンボジア・アジア自治体環境支援プログラム」(ECPA)研修(～9/18)
- 31日 第1回ISO14001内部監査
- 8月 愛・地球博基本理念発展継承事業「環境技術研究者招聘事業」3ヶ国4名(～平成22年4月)
- 9月1日 四日市市「天津市環境保全現地セミナー」(～9/3)
- 11日 トヨタ環境賞受賞中国人30名ICETT見学
- 16日 中国山東省行政官等ICETT見学
- 28日 JICA/三重県「草の根技術協力事業(地域提案型)」研修(～10/6)
- 10月3日 グローバルフェスタJAPAN2009参加(～10/4)
- 12日 四日市市環境フォーラム初出展
- 15日 CTI執行委員会第14回会合ロンドンにて開催(～10/16)
- 18日 日本モデル環境対策技術等の国際展開(環境省)「攀枝花市等を対象とした国内受入研修」(～10/24)
- 19日 評議員選定委員会設置のための理事会開催
- 27日 三重県「河南省(大気汚染防止)」研修(～11/17)
- 29日 JICA(派遣専門家東海OB会)青年研修「産業育成と環境問題」マレーシア研修員15名来館
- 11月1日 名古屋大学大学院博士課程学生長期インターン受入(～平成22年3月末)
- 3日 四日市市「天津市を対象とした人材育成」(NOX汚染防止対策)研修(～11/20)
- 4日 環境省日本モデル事業「窒素酸化物の大気総量削減に係る日中共同研究第2回ワークショップ」(～11/5)
- 9日 JICA中央アジア「水質モニタリング」研修(～12/11)
- 10日 環境省日本モデル事業「攀枝花市環境管理能力向上のための現地研修」(～12/22)
- 24日 JICA中央アジア・コーカサス「CDM案件形成促進」研修(～12/22)
- 12月1日 環境省日本モデル事業「窒素酸化物削減技術に関する訪日視察」(～12/5)
- 2日 環境大臣賞受賞(川口文夫ICETT会長)
- 7日 COP15コペンハーゲンにてサイドイベント開催(～12/18)
- 17日 ISO14001第2回内部監査

編集後記

名古屋大学博士課程の黎明(リーミン)さんをインターンとして受入れています。四川省出身の黎明さんは環境技術移転に大変興味があり、日本語ペラペラ(1級)で中国関係研修での活躍が期待されます。来年設立20周年を迎え、資料を整理しています。ICETT草創期の資料がありましたらご連絡ください。(信)